

広報係OBに
聞きました!



筒井隆義さん
昭和43年9月から30年間、市職員として広報紙の編集に携わる。昭和55年から本紙「歴史散歩」を執筆。

広報紙は市民に親しまれなければならない

当時の広報紙作りは庁内業務の合間に取材に行き、その時の市民の皆さんの顔を思い浮かべながら、すべての原稿を3日ほどで仕上げていました。初めは市からのお知らせが中心でしたが「広報紙は市民に親しまれなければならない」と思い、注目して欲しい記事は見出しを大きくしたり、まちの話題を多く取り上げ、一人でも多くの顔写真や名前を紙面に載せたりと改良を重ねてきました。当時は1面に大きなスペースを割いて写真を掲載するスタイルは県内にはありませんでしたが、読んでもらえなければどんなものを作っても一緒ですから、一人でも多くの人の顔が見えるように写真も工夫をしました。そうすることで近所で話題にもなり、そこから広報紙に興味を持ってもらえますからね。広報紙作りは楽しかったですよ。

広報係
スタッフから
皆さんへ



見てもらう広報紙を心を込めて

現在、ほとんどの自治体が発行している広報紙。自治体ごとに多種多様なものが発行されていますが、これまではどちらかというと文字が多く、硬い印象のものが主流でした。しかし最近では、パソコン編集やデジタルカメラの普及などと相まって、写真やイラストをたくさん使い、視覚的に情報を伝える広報紙が増えてきました。広報紙コンテストなどを見ても、一般誌と見間違えようなものが数多くあり、全国的に「読んでもらう広報紙」から「見てもらう広報紙」へ移行している傾向がうかがえます。

以前受講した研修で「手に取ってもらえない広報紙は発行者の自己満足にしか過ぎない」と講師に言われましたが、これからの広報紙は、もっと市民の皆さんに見てもらえるようさまざまな技術を高めていかなくてはならないと思います。しかし、ただでさえ硬い内容の広報紙。読者の年齢層も幅広く、すべての皆さんに満足してもらおうのは限りなく難しいことですが、今後ともこれまでの良き伝統を受け継ぎ、市民の皆さんの元気な様子をできるだけ織り交ぜながら、分かりやすく、親しみやすい広報紙を、每号心を込めて作っていききたいと思います。

広報係長 田崎和彦(T)

愛される広報紙を

広報係には広報クイズなどを通じて、広報紙に関することから市政のことまで幅広いご意見が毎月寄せられます。これらのご意見を読むたびに、広報紙が市民の皆さんと市政をつなぐ大事な役割を果たしていることを実感しています。テレビやラジオ、インターネットなどさまざまな手段で情報が発信される時代ですが、紙で伝えることは大切なことだと思います。歴代の広報担当者の苦勞を感じながら、これからも皆さんに愛される広報紙を作っていきたいと思っています。

広報係 主査 山口毅(Y)

先月号より良いものを

700号という大きな節目を迎え、広報紙の歴史を改めて感じています。取材などに出掛けると、「毎月読みよるよ」「美人に撮ってね」と気さくに声を掛けられ、イベント会場では写真が撮りやすい場所をすぐに譲っていただくなど、市民の皆さんの温かさをいつも感じながら仕事をしています。これからも皆さんに喜んでもらえるよう、「先月号より良いものを」を目標に広報紙作りに取り組んでいきます。 広報係 山崎瞳(H)

皆さんの目線で分かる言葉に

広報紙を読むだけの市民から「編集協力員」として作る市民になって3年半余り。今回の特集のためにこれまでの広報紙を読み返してみても改めて感じたことは、言葉使いの難しさです。広報紙には「お役所言葉」と言われるなじみにくい言葉や用語をはじめ、難しい言葉がたくさん出てきます。これらを老若男女、すべての皆さんに理解してもらえるよう置き換えるのは至難の業ですが、傍らに赤鉛筆と辞書を置き、市民の皆さんと同じ目線で「分かる言葉」に心掛けながら、頑張っていきたいと思っています。 広報係 和田恭代(W)

☎秘書課 ☎24-1111

広報紙の推移

- 昭和26年 4月 「させぼ市政だより」創刊
タブロイド版4ページ、班回覧
- 32年 4月 町内会を通して各世帯へ配布
- 40年 2月 「歴史散歩」連載開始
- 62年 1月 「させぼ市政だより検討委員会」設置
- 63年 1月 題字を「広報させぼ」へ変更
2色刷へ
- 63年10月 A4版12ページへ
- 平成 2年 5月 一部フルカラーへ
- 7月 市民の声を紙面作りを生かす「編集協力員制度」導入
- 3年 4月 全月16ページへ
- 9年 4月 全月20ページへ
- 13年11月 パソコンで編集作業する「DTPシステム」を導入
- 14年 5月 全月24ページへ
- 16年 5月 全ページフルカラーへ
- 18年 4月 全月28ページへ
- 19年 2月 有料広告掲載開始

町内会の人に
聞きました!



西天神公民館には約2,400世帯分(市内最大)の広報紙が毎月24日に運送会社から届き、それを町内220班分に仕分けし、袋詰めしています。作業は私と事務員、アルバイトの3人でやっています。班長さんを通して、月末までに各家庭に配布されるように、届いてから3日後には各区長さんへ届けています。量が多いだけでなく、天神地区は坂が多く車が通らない道も多いので、毎月の配布作業は大変ですが、市とつながる大切な広報紙ですから、これからも責任を持って届けたいと思います。

西天神公民館長 内海勝男さん(写真右)

第600号
平成12年11月

人口 241,611人
世帯 91,379世帯
※H12.10.1現在



特集では、県内で初めて誕生した新しい子育て応援施設「ファミリーサポートセンター」が紹介されています。三世帯同居が当たり前だった時代から核家族化が進み、創刊当時の世帯数(約4万3千世帯)の2倍以上になる9万世帯を超えたのが、この2年前です。

「ご存知ですか? 育児・介護休業法」では、少子・高齢化が進む中、労働者の家庭と仕事の両立を支援するため、平成11年4月に制定された同法の内容が解説されています。

地元で活動しているグループを紹介する「ズームアップ」では柚木地区公民館で開かれている「表装クラブ」が紹介され、いろいろな場所で活躍する個人を紹介する「アピールNOW」では、すこやか未来づくり食事コンテスト・高齢者の部の最優秀賞受賞者が紹介されています。

「エコちゃんはみた!! 環境ひとくちメモ」では、川をきれいにするため、家庭からの排水をきれいにする工夫を紹介しています。

平成12年
の佐世保



10月1日、アルカスSASEBO完成
(平成13年3月1日オープン)

市長：光武頭(みつたけ・あきら)

4月 1日 九十九島の数調査会が「九十九島の島の数は208」と発表

8月 5日 「新東部クリーンセンター」焼却炉火入れ式
(平成13年1月14日竣工式)

※中国でビザ解禁。初の訪日団体観光の第1陣がハウステンボスを訪れる。